# 永遠の真理

#### **ETERNAL TRUTH**



# 2022年8月

「神のみかたちを回復する」「神の異なったわざ(II)」「もうひとりの御使とふるい」 「ズッキーニのガーリックソテー」



いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

今月の聖書勉強	「神の異なったわざ(II)」 <sup>聖書の教え</sup>	4
朝のマナ	神のみかたちを回復する Restoring the Image of God	6
現代の真理	「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (VII)」 Good Way Series-正道-	38
力を得るための食事	「ズッキーニのガーリックソテー」	42
お話コーナー	<sup>レシピ</sup> 「沈黙をやぶる―歌 ( I )	44

#### 【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1 電話: 0494-22-0465

#### 【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21 電話: 0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

発行日 2022年7月3日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page 48

## キリストの約束

キリストは、わたしたちの身代わりであると同時に保証人となることを約束しておられて、どんな人でもおろそかになさらない。主は人類が永遠の滅びにおちいろうとしているのを見るに忍びず、人類のために死に至るまでご自分の魂を注ぎ出されたのである。主は、自己をみずから救うことができないことを認めたすべての魂にあわれみと同情をよせられるのである。

主はおののきつつ嘆願する者を、必ず助け起こしてくださる。主は、贖罪によって、つきることのない道徳的能力をわたしたちのために備えてくださったから、必ずこの力をわたしたちのために用いてくださる。主は、わたしたちを愛しておられるから、わたしたちは、罪も悲しみもともに主の足もとにおけばよい。イエスのお顔のどの表情もまたどのことばもすべて主に対する信頼を起こさせる。主はみ心のままにわたしたちの品性をお造りになる。単純な信頼のうちに自分を全く主にゆだねる魂に対しては、サタンがどんなに全勢力をあげて来ても、とうてい勝利することはできない。「弱った者には力を与え、勢いのない者には強さを増し加えられる」(イザヤ書 40:29)。(キリストの実物教訓 137)

人間の能力や人間の権力が神の教会を建てたのではなかった。また、それらが教会を破壊することもできないのである。人間の力という岩の上ではなくて、永遠の岩であられるキリスト・イエスの上に教会は建てられた。そして「黄泉の力もそれに打ち勝つことはない」(マタイ 16:18)。神の臨在が神の働きを安定させるのである。「もろもろの君に信頼してはならない。人の子に信頼してはならない」という言葉が、われわれに与えられている(詩篇 146:3)。「穏やかにして信頼しているならば力を得る」(イザヤ書 30:15)。正義という永遠の原則に基づいた、神の輝かしい働きは無に帰することはない。それは力から力に進む。(国と指導者下巻 200)

天の法廷で、キリストは教会のために弁護しておられる。すなわち、キリストが血の贖いの価を支払われた人々のために弁護しておられるのである。どんなに世紀や時代を重ねても、キリストの贖いの犠牲は効力を減じない。生も死も、高いものも深いものも、キリスト・イエスにおける神の愛からわれわれを引き離すことはできない。それはわれわれがしっかりとキリストをつかんでいるからではなく、キリストがわれわれをしっかりつかんでいるからである。…救いは、すべての約束を支持しておられる方にかかっているのである。(患難から栄光へ下巻 256)

「老いも若きも、これらのとうとい真理を学ぶべきである。われわれは、…神の御目的の働きを学ばなければならない。そのときわれわれは、目に見えるものと目に見えない ものとの真の価値を評価することができ、人生の真の目的が何であるかを知ることができる。」(教育 218)

#### 聖書の教え-現代の真理-

## 第29課 神の異なったわざ(II)

#### 千年期の始まり

死んだ義人たちはよみがえらされ、キリストと共に千年間生きるために生きている義人たちと共に昇天します(テサロニケ第一 4:15-17。黙示録 20:1-3,5。第 25 課から第 28 課までご参照)。その期間中、彼らはキリストと共に統治し、悪人の裁きにおいて協力します。しかし、悪人たちは皆、イエスの栄光のご臨在によってみな殺されます。だれも一人生きて地上を歩き回ることはありません。(アザゼルの象徴に見られた)サタンのみが地上に残って 1,000 年の間歩き回り、サタンが生じさせた荒野の大虐殺を顧みるのです。

「見よ、主の日が来る。残忍で、憤りと激しい怒りとをもってこの地を荒し、その中から罪びとを断ち滅ぼすために来る」(イザヤ13:9)。「わたしは見たが、人はひとりもおらず、空の鳥はみな飛び去っていた」(エレミヤ4:25)。

「見よ、主はこの地をむなしくし、これを荒れすたれさせ、これをくつがえして、その民を散らされる。... 地は全くむなしくされ、全くかすめられる。主がこの言葉を告げられたからである。... 地に住む者よ、恐れと、落し穴と、わなとはあなたの上にある。... 地は全く砕け、地は裂け、地は激しく震い」(イザヤ 24:1, 3, 17, 19)。「(それ以外の死人は、千年の期間が終るまで生きかえらなかった。)これが第一の復活である。」(黙示録 20:5)。

#### 千年期におけるサタン

「またわたしが見ていると、ひとりの御使が、底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って、天から降りてきた。彼は、悪魔でありサタンである龍、すなわち、かの年を経たへびを捕えて千年の間つなぎおき、そして、底知れぬ所に投げ込み、入口を閉じてその上に封印し、千年の期間が終るまで、諸国民を惑わすことがないようにしておいた。その後、しばらくの間だけ解放されることになっていた」(黙示録 20:1-3)。

サタンとその悪天使たちは、ただ死人と廃墟に囲まれてこの「底知れぬ所」、

すなわち「われわれをエジプトの地より導き出し、荒野なる、穴の多い荒れた地、かわいた濃い暗黒の地、人の通らない、人の住まない地」(エレミヤ 2:6) につながれ、拘束されます。

誘惑する相手はだれもおらず、欺瞞と破滅という自分の働きから完全に切り離されて、彼は自分の破壊的な働きを熟考するよう迫られます。

「黎明の子、明けの明星よ、あなたは天から落ちてしまった。もろもろの国を倒した者よ、あなたは切られて地に倒れてしまった。あなたはさきに心のうちに言った、『わたしは天にのぼり、わたしの王座を高く神の星の上におき、北の果なる集会の山に座し、雲のいただきにのぼり、いと高き者のようになろう』。しかしあなたは陰府に落され、穴の奥底に入れられる。あなたを見る者はつくづくあなたを見、あなたに目をとめて言う、『この人は地を震わせ、国々を動かし、世界を荒野のようにし、その都市をこわし、捕えた者をその家に解き帰さなかった者であるのか』。もろもろの国の王たちは皆尊いさまで、自分の墓に眠る。 しかしあなたは忌みきらわれる月足らぬ子のように墓のそとに捨てられ、つるぎで刺し殺された者でおおわれ、踏みつけられる死体のように穴の石に下る。あなたは自分の国を滅ぼし、自分の民を殺したために、彼らと共に葬られることはない。どうか、悪を行う者の子孫はとこしえに名を呼ばれることのないように」(イザヤ14:12-20)。

## 神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



8月 思いと金銭の問題

## 園での良い時間

「主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。」(創世記 2:15)

アダムとエバは手入れをするようにとエデンの園を与えられた。彼らは「これを耕」し、「これを守」るのであった (創世記 2:15)。彼らは自分たちの仕事において幸せであった。思い、心、意志が、完全に調和して動いた。彼らは自分たちの仕事に疲労や苦労を感じず、その時間は有益な働きと互いの交わりで満たされていた。(原稿・リリース 10 巻 327)

アダムはエデンの園で精を出して働き、そのように行うことは彼の聖なる存在の喜びの一つであると感じた。後に彼が自分の不従順の結果としてその美しい家庭から追い出され、日々の糧を得るために固い土壌に苦労しなければならなかったとき、園の楽しい仕事とははるかに違っていたが、まさにその労働が彼の悲しんでいる魂に慰めとなり、誘惑への抵抗となった。

思慮深い労働は人類にとって健康的な強壮剤である。それは弱々しい者を力強くし、臆病な者を勇敢にし、貧しい者を金持ちにし、不幸な者を幸福にする。わたしたちのさまざまな責任はわたしたちのさまざまな能力に比例する。どの人も自分の個々の能力に応じて神から報いを受ける。このお方はご自分が僕にお与えになったタラントに見合う収益を期待なさる。報酬を決定するのは所有しているタラントの多さではなく、多かろうと少なかろうとそれが用いられた方法、人生における義務を行った忠実さの程度による。多く与えられたところは多く要求される。

だれでも自覚してよく働くなら、それが商店、畑、説教壇どこであろうと彼が 働いたその精神に応じて報いを受ける。

怠惰は人に降りかかることのできるもっとも大きなのろいである。なぜなら悪い行いと犯罪がそれに続くからである。サタンは待ち伏せし、何か魅力的な見せかけのもとに……用心していない人、すなわち自分の暇な時間によってサタンに機会を与える人を、驚かせ、滅ぼそうとしている。何もしていないときに人々のところへ来るときほど、サタンが成功するときはない。(健康改革者1876年9月1日)

屋外運動は生命維持に必須なものとして勧めなければならない。この種の 運動としては土地を耕作するよりほかによいものはない。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 243)

#### 田舎の家庭

「わが民は平和の家におり、安らかなすみかにおり、静かな休み所におる。しかし林はことごとく切り倒され、町もことごとく倒される。」(イザヤ 32:18,19)

ロトがソドムに行ったとき、彼はわが身を不義から守り、自分にならう者とするように家族の者を治める気持ちは十分に持っていた。だが彼は大失敗をした。 堕落した周囲の感化は彼自身の信仰に影響を与えた。また子供たちがソドムの 住民と結婚したために、彼の関心はある程度彼らの関心に結びついた。その結 果はわたしたちに示されている。多くの人々はいまも同じような過ちを犯している。

あなたの家庭をソドムとゴモラからできるだけ離れたところに選ぶため、あるいはつくるために研究しなさい。たとえそうしたために富裕になれなくとも、できればあなたの家庭を静かな田舎につくりなさい。いちばん良い影響のある所に住みなさい。

わたしは教会の人々に、家族を住まわせる家を求めて都会にむらがらないよう警告することを主に命じられた。父親と母親がたに、あなたがたの子供たちを自分の屋敷の中で育てるようにと告げることを主に命じられた。(アドペンチスト・ホーム 144)

町から離れていなさい。都市にサニタリウムを建ててはならない。都市から田舎へ移るようにとわたしたちの民を教育しなさい。そこで彼らは小さな土地を手に入れ、自分と子供たちのために家庭を作ることができる。ロサンジェルスの町にサニタリウムを建設することに関して質問が起こったとき、わたしはこの動きに反対しなければならないと感じた。この事柄に関して非常に重い重荷を担い、沈黙を守ることはできなかった。兄弟がた、天におられる主からあわれみと愛のうちにわたしたちに送られた証に聞き従うときである。

わたしたちのレストランは都市になければならない。なぜならこれらのレストランにいる働き人は他の方法では人々に接触することはできず、彼らに正しく生きる原則を教えることができないからである。そして今さしあたっては、都市に集会所を賃借りしなければならないであろう。しかしまもなく都市を離れたいと望む者が離れることのできなくなるような闘争と混乱があるであろう。(世界総会冊子1903年4月6日)

#### 農作技能の祝福

「あなたの羊の状態をよく知り、あなたの群れに心をとめよ。」(箴言 27:23)

都市から離れよというのがわたしの絶え間ない忠告となっている。しかしわたしたちの民が目覚めて状況を理解するのに何年もかかっている。主が、彼らに都市を離れ、田舎の静かなところで自分たちの働きをし、騒動、騒音、混乱から離れるようにと望んでおられることに気がつくのに、彼らは何年もかかっている。(特別な証 B シリーズ No.036,14)

最上の感化力があるところに来なさい。あなたの子供たちに仕事を与え、何か手に職を習わせなさい。彼らに土地を耕すことを教えなさい。もしあなたが彼らを忙しくさせておかないなら、悪魔がそうするであろう。子供たちの思いは活発なため、実生活の重荷をになう仕事に従事させられる必要がある。彼らが自分たちのやることを拾い上げるままにさせてはならない。両親が自らこのことを監督しなければならない。(レイク・ユニオン・ヘラルド1909年4月7日)

心ある働き人は土を耕してみて思いがけない宝が目の前にあらわれるのに気がつく。農業や園芸においては、そこに含まれている法則に注意を払うことなしには、だれも成功することはできない。それぞれの種類の植物について、その特殊な必要を研究しなければならない。種類の相違によって、それぞれ異なった土壌と栽培が必要であり、おのおのを支配している法則にしたがうことが成功の条件である。

移植に必要な注意、すなわち毛根を密着させたり置きちがえたりしないことや、苗の保護、剪定や灌水、夜は霜を昼は太陽を防ぎ、雑草、病気、害虫を防ぎ、整枝、配列に気をつけるなど、すべてこうしたことは品性の発達についてたいせつな教訓を教えるばかりでなく、また働きそのものが発達の手段でもある。注意深さ、忍耐力、こまかいことに対する注意、法則に従う観念などを養う上にこのような働きは非常にたいせつな訓練となる。生命の神秘や美しい自然との絶えまない接触は、神の創造されたこれらの美しいものに奉仕することによって生ずる心のやさしさとともに、心をいきいきとさせ、品性を洗練して高める上に役立つ。そして、そこに教えられる教訓によって、働き人は、人の心をいっそう上手に取り扱うことができるようになる。(教育 118,119)

#### 農業的な知恵

「なまけ者は寒いときに耕さない、それゆえ刈入れのときになって、求めても何もない。」(箴言 20:4)

クリスチャンの農夫は、貧困者がその地方に家を持ち、土地を耕作し、農作物がとれるようにする方法を教えることによって真の伝道事業をすることができる。農具の使用法、各種農作物の栽培方法、果樹の植え方、取り扱い方を教えなさい。

土地を耕作しているが、怠慢のために十分な収穫が得られない者が多い。その果樹園は適切に管理されておらず、適当な時期に種子がまかれておらず、また土地は単に表面だけしか耕作されていない。それでいて、不成功に終ると土地が悪いせいにする。よく働けば豊かな収穫が得られる土地を悪くいう偽りのあかしがたてられることがしばしばある。目先だけの計画や、わずかばかりの努力や、最善の方法に関する研究の不足は、改革を非常に必要としている。

喜んで学ぼうとする者にはすべて正しい方法を教えなさい。もし進歩した考案を聞きたくない人がいるならば、沈黙のうちにそれを教えなさい。自分の土地をりっぱに耕作し、機会あるごとに少しずつ教え、正しい方法がよいことをその収穫に雄弁に物語らせるようになさい。(ミニストリー・オプ・ヒーリング168,169)

他の人々にどのように耕すか、またどのように農機具を用いるかを教える人が必要とされている。だれがこの働きをする、すなわち青年たちに、また学ぶだけの自発性と謙遜さを感じるすべての人に、適切な方法を教える伝道者となるだろうか。もしあなたが先進的な考えを自分たちに教えることを望まない人がいれば、これらの教訓が沈黙のうちに与えられるようにしなさい。どのように果樹園を整え、とうもろこしを植えるかを示しなさい。収穫に労働の正しい方法について雄弁に語らせなさい。(クリスチャン教育の基礎 324)

農業がわたしたちのサニタリウムと学校の働きに結び付けられるのが神のご計画である。わたしたちの若者にはこの分野の働きから得られる教育が必要である。この面における主のご計画を実行するために努力が払われることは望ましいだけでなく、不可欠なことである。(教会への証8巻228)

## 勤勉の習慣を発達させる

「わたしはなまけ者の畑のそばと、知恵のない人のぶどう畑のそばを通ってみたが、いばらが一面に生え、あざみがその地面をおおい、その石がきはくずれていた。わたしはこれをみて心をとどめ、これを見て教訓を得た。しばらく眠り、しばらくまどろみ、手をこまねいて、またしばらく休む。それゆえ、貧しさは盗びとのように、あなたに来、乏しさは、つわもののように、あなたに来る。」(箴言 24:30-34)

あなたの力強さはあなたの家族を豊かに支えるのに十分である。もし必要ならば、朝まだ星が瞬(またた)いている頃に起きなさい。何かを行う計画を立て、そのあとそれを成し遂げなさい。病気で寝込むことがないかぎり、どのような誓約も償いなさい。他人が当然受けるべきものを与えずにおく罪を犯すよりは、自分自身の食物や睡眠を取らない方が良い。

向上の丘は努力なくしてはのぼれない。宗教的なことであろうと世俗のことであろうと、自主的に努力をするのでなければ賞を得ることを期待するには及ばない。競走は必ずしも敏速な者のためではなく、戦いも強い者のためではないが、怠惰な手をもってとり扱う者は必ず貧しくなる。辛抱強い者、勤勉な者は自分が幸せなだけでなく、他人の幸福に大きく寄与する。能力と快適さは、熱心な勤勉さという代価を払わない限り、ふつうに手に入るものではない。……

女性は自分の仕事と家族の仕事もするとき、一夫と息子たちは打ち解け、くつろいで暖炉のそばに座っている一方、彼女が薪(たきぎ)と水を運び、薪を準備するために斧までもってくるとき一彼女は自分のためにも彼らのためにも重大な過ちを犯している。神は、妻であり母親である者が家族の奴隷であるようにと計画されたことは決してない。母親は多くの場合、子供たちが家庭の重荷を分かち合うよう教育されていない一方、世話では負担がかかりすぎている。……

決して子供たちに怠惰を助長したり許したりすべきではない。なぜならそれは まもなく習慣になるからである。……

正しい手順がすべてである。一度にひとつのことをしなさい。そしてそれを立派になし、二番目の働きを始める前に終えてしまいなさい。あなたは起床も、祈りも、食事も、定まった時間を持つべきである。多くの者は、寝床で貴重な時間を無駄にすることが生来の傾向を満足させ、そうしないためには努力を要するために、そうしてしまう。午前中に無駄にした一時間は決して取り戻すことのできない失われた時間である。(教会への証5巻180,181)

#### 手仕事における健康と尊厳

「働く者は食べることが少なくても多くても、快く眠る。しかし飽き足りるほどの富は、彼に眠ることをゆるさない。」(伝道の書 5:12)

若い男たちは、教師や書記や商人や医者や弁護士などになりたがったり、あるいはその他肉体労働を必要としないような地位を占めたいと望む。若い女性は家事を避けて、他の方面の教育を求める。どんな男でも女でも、まじめな働きによっては、決して品格が下がることはないということを学ぶ必要がある。(教育256)

有益な労働を勉強と組み合わせる人々は体操で体を動かす必要はない。そし て戸外で行う仕事は屋内での労働に比べ十倍以上も健康にとって益となる。職人 と農夫は共に体を動かすが、農夫の方が健康的である。自然の元気づける空気 と日光だけが体組織の要求に完全に応じる。土を耕す者は、かつて体育館で実 践した動きをすべて自分の労働の中に見出す。彼の運動部屋は広々とした畑であ る。天の天蓋が屋根であり、しっかりとした地面が床である。ここで彼は鋤で耕 し、くわで耕し、蒔き、刈り取る。「干草を作るとき」のように、彼は刈り、熊手 で集め、放りあげ、転がし、持ち上げ、積みあげ、投げおろし、踏みつけ、しま い込む。これらのさまざまな動きは体の骨、関節、筋肉、腱、神経を活動させる。 彼の力強い動きは十分な深い力の強い吸気と呼気を、肺を広げて、動脈と静脈 を躍動しながら暖かい命の流れを送りつつ、血液をきれいにする。自分のすべ ての習慣に節制をする農夫は、たいてい健康を楽しむ。その働きは彼にとって楽 しいものである。彼は食欲があり、よく眠り、そして幸せになれる。活動的な農 夫の状態と対照的なのが、身体的な運動をなおざりにする学生の状態である。 彼は締め切った部屋に座り、机かテーブルの上にかがみこんでいるので、彼の胸 は狭くなり、肺は押され、十分に深い呼吸ができず、頭脳は最大限にまで重い 負担がかかり、その一方で彼の体はまるで使い道がないかのように活動していな い。彼の血液は体組織をゆるやかに流れ、足は冷たく、頭は熱している。このよ うな人がどうやって健康でいられるであろうか。(クリスチャン教育の基礎 73.74)

## わたしたちのなすべきことをよく考える

「主の家はこのように荒れはてているのに、あなたがたは、みずから板で張った家に住んでいる時であろうか。それで今、万軍の主はこう言われる、あなたがたは自分のなすべきことをよく考えるがよい。」(ハガイ1:4,5)

神はご自分の民に第一にして最高の要求をもっておられる。あなたの愛情をこのお方と天の事柄におきなさい。あなたの巻きひげは地上のどのことからも切り離されなければならない。……

神聖なご命令に従って、世から分離するとき、それがわたしたちを主に任された働きに適さない者にするのであろうか。分離がわたしたちの周りにいる人々に良いことをするのを妨げるのであろうか。否、わたしたちが天をしっかりとつかめばつかむほど、わたしたちの力はますます有用さを増す。わたしたちは、キリストのうちに宿っている霊がわたしたちのうちに宿ることができるように、型であるお方を研究しなければならない。救い主は世の地位の高い人、尊敬されている人の間では見出されることがなく、安逸や快楽を求めている人々の間で時を過ごされることもなかった。このお方は、助けを必要としている者、失われ、滅びつつある者を助け、気力がくじけている者を引き上げ、捕らわれている者から圧迫のくびきを砕き、苦しむ者を癒し、悩み悲しむ者に同情と慰めの言葉を語るために働かれた。

わたしたちは主人であるお方の模範に従うようにと命じられている。わたしたちがキリストの精神にあずかればあずかるほど、同胞のためにもっとしようと努める。 貧しい者を祝福し、失望している者を慰める。滅びゆく魂への愛に満たされ、天の至高者のみ足の後に従うことに喜びを見出す。

神のご要求はわたしたちの前にはっきりと示されている。置かれている質問は「わたしたちはそれに応じるのであろうか。神のみ言葉一世からの分離―に言明されている条件を受け入れるのであろうか」である。これは一瞬のあるいは一日の働きではない。家庭の祭壇でひざまずき、口先だけの申し出によって成し遂げるのではなく、公の奨励や祈りによって成し遂げるのでもない。それは生涯を通じての働きである。わたしたちの神への献身が、生活に織り込まれた生きた原則となり、自己否定と自己犠牲に導かなければならない。それはわたしたちのすべての思想の基礎であり、あらゆる行動の泉でなければならない。これはわたしたちに世を超越させ、その汚染している感化力からわたしたちを分離させる。(サザン・ワーク1907年2月19日)

#### 今日のより大きな必要

「あなたがたは多くまいても、取入れは少なく、食べても、飽きることはない。飲んでも、満たされない。着ても、暖まらない。賃銀を得ても、これを破れた袋に入れているようなものである。万軍の主はこう言われる、あなたがたは、自分のなすべきことを考えるがよい。山に登り、木を持ってきて主の家を建てよ。そうすればわたしはこれを喜び、かつ栄光のうちに現れると主は言われる。あなたがたは多くを望んだが、見よ、それは少なかった。あなたがたが家に持ってきたとき、わたしはそれを吹き払った。これは何ゆえであるかと、万軍の主は言われる。これはわたしの家が荒れはてているのに、あなたがたは、おのおの自分の家の事だけに、忙しくしている。それゆえ、あなたがたの上の天は露をさし止め、地はその産物をさし止めた。」(ハガイ1:6-10)

神は、天使たちを、神の真理の使者になさることもおできであった。シナイ山から律法を宣言なさったように、ご自分の声で、みこころを人に知らせることもおできであった。しかし、神は無限の愛と知恵によって、人間を召して、神ご自身の共労者となし、彼らを選んでこの働きをおさせになった。

イスラエルの時代に、十分の一と任意のささげ物とは神の礼拝の儀式を維持するために必要であった。この時代に、神の民は、それ以下のものをささげるべきであろうか。……救いの使命を他の人々に伝えるために、もっと多くのささげ物をして、感謝を表わすべきではないだろうか。福音の事業は、拡大するにつれて、昔よりは多くの資金がその維持のために必要である。それで、十分の一とささげ物の律法は、ヘブル時代におけるよりは、今日、さらにその必要が緊急度を加えた。(人類のあけぼの下巻 163, 164)

最高の賃金をもたらす働きを持っている者に前面に来させ、彼らが受ける賃金に見合う役割を果たさせよう。限られた賃金を得ている者にもこの事柄に関心を持たせよう。あなたができることをし、あなたの什一献金のほかに何かを取っておきなさい。あなたにはこの目的のために箱があるだろうか。あなたの子供たちに、それは自己否定の箱、あなたが得ることができ、実際の必需品のために使う必要のない、どの一円玉もどの十円玉もたくわえる箱であることを説明しなさい。それは主の家のためであり、聖なる自己否定の金銭である。……これをすることにより、家族一人びとりが祝福される。(原稿リース10巻126)

## 金銭の源と目的

「あなたはあなたの神、主を覚えなければならない。……あなたに富を得る力を 与えられるからである。」(申命記 8:18)

もしあなたに浪費の習慣があるなら、あなたの人生からそれらを切り離しなさい。そのような習慣、放縦はあなたを永遠への破産者とする。そして節約、勤勉、まじめはこの世においてすら、あなたとあなたの子供たちにとって豊かな生まれつきの才能よりももっと良い相続分である。

わたしたちは地上では旅人、寄留者、よそ者である。神が抑制するように命じておられる欲望を満足させるために財産を費やさないようにしよう。むしろ仲間の前に正しい模範を示そう。自分の必要を制限することによって、わたしたちの信仰を適切に表そう。教会が一つとなって立ち上がり、この終わりの時代に真理の満ち満ちた光のなかを歩んでいる者として熱心に働こう。あなたの感化力が、神のご要求の神聖さを魂に印象づけるようにしよう。

もし神のみ摂理のうちにあなたに富が与えられているとき、有益な労働にたずさわる必要はない、自分には十分あるから、食い飲み、楽しむことができるという考えで、腰を据えてしまってはならない。他の者がみ事業のための収入を得ようと苦労している間、なまけていてはならない。わたしたちの財産を主のみ働きに投資しなさい。もしあなたが滅びつつある者に助けを与えるにあたって、あなたの義務よりも少なくしかしなければ、あなたの怠惰は有罪となり怒りを招くことを覚えていなさい。

人に富を得る力を与えるのは神であり、このお方は、自己を満足させる財産としてではなく、神ご自身に返す財産として、この能力を与えておられる。この目的をもって財産を得るのは罪ではない。金銭は労働によって得るべきである。どの青年も勤勉の習慣を身につけるよう訓練されるべきである。もし人が正直に自分の富を得ているなら、聖書は金持ちだということで人を責めはしない。すべての悪の根は不当に携わった金銭の利己的な愛である。もしわたしたちが富を主のものと見なし、感謝をもって受け取り、感謝をもって与え主にお返しするなら、富は祝福であることがわかる。

しかし、もし富が高価な邸宅や銀行株のために蓄えられるなら、莫大な財産はどんな価値があるのだろうか。無限の神の御子がそのために死なれた一人の魂の救いと比べて、これらはどのような価値があるだろうか。(教会への証6巻452,453)

#### わたしたちはどのように高められるか

「ヤコブは誓いを立てて言った、神がわたしと共にいまし、わたしの行くこの道でわたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、またわたしが柱に立てたこの石を神の家といたしましょう。そしてあなたがくださるすべての物の十分の一を、わたしは必ずあなたにささげます」。(創世記 28:20,22)

キリストは福音を広める働きを人に割り当てられた。だがある者が宣布するために出て行く一方で、このお方は他の者に伝道を支え、全地に印刷された真理をまくために、什一と捧げ物を求めるご自分の要求に応えるよう呼びかけておられる。これが人を高める神の方法である。それはまさに彼が必要とする働きである。なぜならそれは彼の心のもっとも深い共感を起こさせ、思いの最高の能力を働かせるからである。

地上のあらゆる良いことは、人への神の愛の表現として、このお方の物惜しみ をしないみ手によって、ここに置かれた。貧しい者はこのお方のものであり、宗 教上のみ事業はこのお方のものである。神は人の手に財産を置かれたが、それ はこのお方の聖なる賜物が、わたしたちの同胞を救うことにおいてわたしたちに任 命しておられる働きをすることで、人間の水路を通って流れることができるためで ある。一人びとりが大いなる分野で自分に任命された働きを持っている。だが、 だれも神が人に頼っておられるという考えを受け入れるべきではない。このお方 がみ言葉を語られれば、すべての貧困の子を裕福にすることがおできになるので ある。一瞬で人類のすべての病気を癒すことがおできになる。まったく牧師を用 いず、天使をご自分の真理の大使とすることがおできになるのである。このお方 は大空に真理を書きつけ、木々の葉や野の草花にそれを刻み込み、あるいは聞 こえる声が天からそれを宣言するようにもおできになる。しかし知恵に富まれる 神は、これらの方法をどれもお選びにならなかった。人は人生が自分に祝福とな るためには何かすべきことがなければならないことを、このお方は知っておられ た。金や銀は主のものであり、もしそうしようと思えば、それらを天から降らすこ とがおできになる。しかしそうする代わりに蓄えるためではなく、他の人のために なることに用いるようにと人に財産をゆだねて、ご自分の執事となさった。主はこ のようにして人を地にご自分の祝福を分配する媒体とされた。神は、人がその創 造主のように品性において慈悲深く無我の者となり、ついにはこのお方と共に永 遠の栄光に満ちた報いにあずかる者となることができるように慈善の組織を計画 された。(教会への証4巻472,473)

## 良心の呵責を感じる

「あなたがたの神、主がその名を置くために、あなたがたの全部族のうちから選ばれる場所、すなわち主のすまいを尋ね求めて、そこに行き、あなたがたの燔祭と、犠牲と、十分の一と、ささげ物と、誓願の供え物と、自発の供え物および牛、羊のういごをそこに携えて行って」(申命記 12:5,6)

わたしたちが什一を、宗教的な目的のためのユダヤ人の献金の基準として語るとすれば、理解して語っているのではない。主はご自分の要求を最高のものとされ、ほとんどすべてのものにおいて、与え主にお返しするよう要求されることによって、彼らはこのお方を覚えたのであった。彼らは初めの男子、群れの初子(ういご)、収穫の初穂のために贖い代を払うよう要求された。貧困者のために収穫の畑の隅を残しておくよう要求された。刈り入れ時に手から落ちた物はなんであっても貧しい者のために残し、七年に一度彼らの土地は貧乏な者のために自然に産出することが許された。それから犠牲の捧げ物、愆祭(けんさい)、罪祭、七年ごとのすべての負債の許しがあった。また貧しい者への親切なもてなしと贈り物のための多くの出費もあり、彼らの所有物への課税があった。

定められた期間に、律法の規範を保つために、人々は自分の誓いを忠実に果たしたかどうかを調べられた。良心的な数少ない人々は、宗教上の利益と貧しい者の益のために彼らの全収入の約三分の一を神に返した。これらの強制取立ては民の特別な階級からではなく全員からであった。……

このことについて、わたしたちは民として覚醒がなければならない。施しにおける自分たちの義務をなおざりにしたときに、罪悪感を持つ人はわずかしかいない。……わたしたちはこの主題に対し、新しいもっと深い罪の自覚を持たなければならない。良心が目覚め、この事柄が真剣な注目を受けなければならない。なぜなら終わりの日に神に報告がなされなければならず、このお方のご要求は決着がつくからである。(教会への証 4 巻 467,468)

#### 虚栄を永遠の価値と交換する

「わたしは日の下に一つの悪のあるのを見た。これは人々の上に重い。すなわち神は富と、財産と、誉とを人に与えて、その心に慕うものを、一つも欠けることのないようにされる。しかし神は、その人にこれを持つことを許されないで、他人がこれを持つようになる。これは空である。悪しき病である。」(伝道の書 6:1,2)

多くの者はこの世の宝に夢中になり、神の要求と他に困っている人がいることに無感覚になっている。自分の富は自分の誇のために用いるべきものだと決め、つぎつぎに家を建て、土地をふやし、贅沢な物で家を満たすのである。しかも、その周囲には悲惨、犯罪、疾病、そして死に遭遇している人がたくさんいる。このように自己奉仕に生きる者は神の性格ではなく、悪魔の性質を自らの中に発達させているのである。

こういう人が福音を必要としており、その目は物質のむなしさから離れ、永遠の富の尊さをながめる方に向けられなければならない。……

裕福でこの世を愛する人、この世を崇拝する人がキリストにひかれていくのは 気まぐれな偶然的接触によるのではない。こうした人に近づくのは最も至難な場 合が多く、失望したり落胆したりしない、伝道精神に燃えた男女の個人的な努力 を払わなければならない。……

上流階級の人の心に触れるためには生活様式や仕事の仕方をその人たちの気むずかしい趣向にあうように変更しなければならないと考える人が多い。裕福そうな外観、りっぱな邸宅、高価な衣服、設備や環境、この世的な習慣に従うこと、流行を追う社会の人為的上品さ、高雅な教養、美しい言葉づかい等は重要なことと思われている。しかし、それは誤りである。こうした世俗的な方法は上流階級の人々の心に触れる神の方法ではない。彼らの心に触れて効果があるものはキリストの福音を矛盾なく無我の精神で示すことである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 190,191)

わたしたちは入念に自分自身に問うべきである。わたしたちは神の王国にどのような宝を確保しているのであろうか。わたしたちは神に対して富んでいるであろうか。(教会への証3巻401)

## あらゆる状況の中で証する

「いちじくの木は花咲かず、ぶどうの木は実らず、オリブの木の産はむなしくなり、 田畑は食物を生ぜず、おりには羊が絶え、牛舎には牛がいなくなる。しかし、わた しは主によって楽しみ、わが救の神によって喜ぶ。」(ハバクク 3:17.18)

あなたは真理をみとめ、神の律法の主張を理解している。あなたは故意に罪を犯す者は命に入ることはないと知っており、なおかつ律法が世で無効にされているのを見る。あなたの義務は何であろうか。あなたは「わたしにとって何が都合が良いであろうか。何がふさわしいであろうか」と問うべきではなく、「魂を救うためにわたしは何ができるであろうか」と問うべきである。

わたしたちの前には大いなる働きがある。世は警告を受けなければならない。この働きは、わたしたちが自分のものにしているようにと神が委ねてこられたタラントをすべて働かせるよう求める。このお方は、わたしたちが他の人の思いに感化力を働かせることができるようにと、わたしたちに能力を与えておられる。わたしたちはペンに、印刷に、声に、財産に、そして聖化された魂の愛情にタラントを持っている。これらのタラントはみな主のものである。このお方はそれらをわたしたちに貸し与えておられ、それらを用いるに当たって、世に対するわたしたちの義務を忠実に遂行する責任を問われる。わたしたちはイエスの許に非常に近く来ることができ、このお方と交わり、自分自身の魂に休息と平安を見い出し、他の人々に真理の聖潔の美を示すことができる。

わたしたちは自分の信仰と勇気をテストするために闘争にあうであろうが、もしわたしたちが、イエスが与えたいと思っておられる恵みによって勝利するなら、それらはわたしたちを強くする。しかしわたしたちは信じなければならず、疑わないでみ約束をしっかりと掴まなければならない。それらは終わりの時代の危機と試練の間でさえ、豊かに富んだものである。……わたしたちが信仰を働かせ、信仰を語り、信仰の働きをするなら、神のみ約束はわたしたちに実証される。そしてわたしたちが自分の信仰の告白に一致して歩むとき、わたしたちも他の人々に慎重に歩むよう教えているのである。

闇を選んではならない。不信という冷たく暗い洞窟から出て、二階の座敷に入りなさい。そこであなたは神の愛の日光に浴することができ、イエスのご臨在のうちに平安と休息を楽しむことができる。(福音宣伝者 434,435)

## 神の奥義の管理者

「このようなわけだから、人はわたしたちを、キリストに仕える者、神の奥義を 管理している者と見るがよい。」(コリント第一4:1)

神は〔第三天使の〕メッセージが閉じる時、あるいは猶予期間が終わる時をわたしたちに明らかにしてはおられない。明らかにされたことをわたしたちは自分自身と子供たちのために受け入れる。しかし、全能者の会議において秘密にされてきたことを知ろうとしないようにしよう。見張り、働き、待つこと、そして滅びようとしている人々の魂のために毎瞬間働くことはわたしたちの義務である。絶えずイエスのみ足の後に従って歩み、このお方の方針に従って働き、神の多種にわたる恵みの良き管理人としてこのお方の賜物を分配し続けるべきである。サタンはこの時代のためのすばらしい真理を無効にするために、イエスから毎日学んでいない者がいれば、自分自身の作りだした特別なメッセージを与えようと待ち構えている。

わたしのところに、恩恵期間が閉じる時について何か特別な光をもっているかを尋ねる手紙を受け取った。わたしが担うべきメッセージはただこれだけである、とわたしは答える。すなわち、今は昼の間に働くべき時だということ、なぜなら、だれも働くことのできない夜が来るからである。いま、まさに今こそ、わたしたちが見張り、働き、待つべき時である。主のみ言葉は万物の終わりが間近であることを明らかにしている。(セレクテッド・メッセージ1巻191)

わたしたちが担っているメッセージは、宣布することを畏れる必要のあるようなものではない。その擁護者は、それを覆おうとしたり、その起源や目的を隠そうとしたりすべきではない。神に対して厳粛な誓いをした者として、またキリストの使命者、恵みの奥義の管理人として任命を受けてきた者として、わたしたちは神の勧告全体を忠実に宣言する義務の下にいる。

わたしたちは、自分たちを世から分離させ、今日ある自分たちにした特別な真理を、少しでも目立たないようにすべきではない。なぜなら、それらは永遠の利益に満ちているからである。神はわたしたちに今起こりつつある事柄に関して光を与えてこられた。そして筆舌をもって世に真理を宣布すべきである。しかし、わたしたちの言葉を実りあるものとするのは、ただ魂のうちにあるキリストの命であり、聖霊によって与えられる活動的な愛の原則だけである。(福音宣伝者 288)

## 神の金銭の管理者

「この場合、管理者に要求されているのは、忠実であることである。」(コリント第一 4:2)

感謝の愛に動かされた、全き献身と慈善は、最も小さな捧げ物や、自発的な 犠牲に、神聖な香を与え、その賜物を価をつけらることのできないほど価値のあ るものとする。……

〔キリストは〕わたしたちをご自分につける自発的な僕として結びつけるために、ご自分の苦難の命と流された血のうちにわたしたちに報いを提供された。わたしたちの持っているあらゆる良いものはすべて主から貸し与えられたものである。このお方はわたしたちを管理者とされた。信仰と愛のうちに差し出されたわたしたちの最も小さな捧げ物、もっともつつましい奉仕は、魂を主人の奉仕に勝ち取り、このお方の栄光を促進するために捧げられた賜物となることができる。キリストの王国の利益と繁栄が、他のすべての考慮すべきことに勝る最高のものとなるべきである。自分たちの楽しみや利己的な関心を自分の生活の最高の目的とする者は、忠実な管理者ではない。

他の人々に善を行うために自己を否定し、自分自身と自分の持っている者をすべてキリストの奉仕にお捧げする人々は、利己的な人が求めている幸福が虚しいことを悟る。わたしたちの救い主は、「あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない」と言われた(ルカ14:33)。愛は「自分の利益を求めない」(コリント第一13:5)。これはキリストの生涯を特徴づけた無私の愛と慈善の実である。わたしたちの心のうちにある神の律法は、わたしたち自身の利益を、高くて永遠の考慮すべき事柄に服従させる。わたしたちはキリストにまず神の王国と神の義を求めるように命じられている。これがわたしたちの第一にして最高の義務である。わたしたちの主人は、ご自分の僕たちに地上に宝を蓄えてはならないとはっきり警告された。なぜなら、そうすることによって彼らの心が天の事柄よりも地上のことにあるからである。ここで、多くの哀れな魂が信仰の破船にあった。彼らはわたしたちの主の表現されたご命令に真っ向から反対の道へ行き、金銭への愛着が自分たちの生活の支配的な情欲となることを許してしまった。彼らは財産を獲得する努力において不節制であった。……

クリスチャンは自分たちが主人の僕であることを忘れている。彼ら自身も、彼らの時間も、彼らの持っているすべてのものは、このお方に属するのである。(教会への証3巻397,398)

## 与えることはより大きな喜びをもたらす

「あなたがた自身が知っているとおり、わたしのこの両手は、自分の生活のためにも、また一緒にいた人たちのためにも、働いてきたのだ。わたしは、あなたがたもこのように働いて、弱い者を助けなければならないこと、また『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべきことを、万事について教え示したのである」。」(使徒行伝 20:34,35)

もし資金を持っている人が自分たちの費やすードルードルに対して神への報告 責任があることを自覚するなら、彼らの必要だと思っていた物はずっと減ることで あろう。もし良心が生きているならば、それは食欲や誇りや虚栄や娯楽への愛 着などに充当された不要な出費を証し、主のみ事業に捧げられるべきであった主 の金銭を浪費したことを報告することであろう。(教会への証3巻401)

キリストの十字架の原則は、信じるすべての人を、自己を否定し、他の人々に 光を与え、光を広めるために自分たちの資金を捧げるという重い義務のもとへ連 れて行く。もし、彼らが天とのつながりのうちにいるならば、彼らは御使たちとの 調和のうちに働きに携わるのである。

世俗の原則は、この世の朽ちるものをできる限り手に入れることである。儲けるという利己的な愛が、彼らの生活を支配している原則である。しかし、もっとも純潔な喜びは、富の中にも、いつも貪欲が切望しているところにでもなく、満ち足りた心が支配しているところ、また自己犠牲的な愛が原則として支配しているところに見出されるのである。放縦にふけって自分の人生を送り、いつも不平に満ちた心をもっている人々が何千といる。彼らは利己心の犠牲者であり、自分たちの思いを放縦で満足させようとむなしい努力をして不満を抱いている。しかし、不幸が彼らの表情そのものに刻印されており、彼らの道は良い行いの実りがないために、その背後は砂漠なのである。

キリストの愛がわたしたちの心を占め、わたしたちの生活を支配するのに比例して、貪欲、利己心、安逸を愛する心は克服され、自分たちがその僕であると主張しているキリストの御旨を行うことがわたしたちの喜びとなる。そのときわたしたちの幸福は、キリストの愛によって促された自分たちの無我の行いに比例するようになる。(教会への証3巻382)

## 自己否定の模範を生きる

「兄弟たちよ。あなたがたはわたしたちの労苦と努力とを記憶していることであろう。すなわち、あなたがたのだれにも負担をかけまいと思って、日夜はたらきながら、あなたがたに神の福音を宣べ伝えた。」(テサロニケ第一2:9)

パウロ自身の生活が彼の宣べ伝える真理を例証していたため、彼の説教には 説得力があった。(患難から栄光へ下巻 209)

神はあなたが起き上がって、障害物を乗り越える力を持つように望んでおられる。簡単に失望してはならない。もし必要であれば、使徒パウロがしたように、キリストがそのために死なれた魂のために深い関心を感じて弱さを忘れ、疲労の中で、骨折りの中で、見張りつつ、働きなさい。(教会への証 2 巻 628)

神の御子のへりくだりの生涯に注目しなさい。このお方は「悲しみの人で、病 を知っていた」(イザヤ53:3)。このお方の屈辱、ゲッセマネでの苦悩をながめて、 何が自己否定であるかを学びなさい。わたしたちは欠乏に苦しんでいるであろう か。天の大君であられるキリストも苦しまれたのである。しかし、このお方の貧 しさはわたしたちのためであった。わたしたちは富む者のうちに地位を占めている であろうか。このお方もそうであった。しかし、このお方はわたしたちのために貧 しくなることに同意された。それはわたしたちがこのお方の貧しさを通して富む者 となるためであった。キリストのうちに、わたしたちには具現化された自己否定が ある。このお方の犠牲はただ単に天の王宮を去られたことにあるのでも、悪人た ちに犯罪者として裁判にかけられて有罪を盲告されたことにあるのでも、また悪 党として死に渡されたことにあるのでもなく、世の罪の重さを担われたことにある。 キリストの生涯は、わたしたちの無関心と冷たさを譴責する。わたしたちは終わ りの時、すなわちサタンが自分の時が短いことを知って、大いなる怒りをもって、 地に下ってきた時に近い。彼は滅びる人々のうちにあらゆる不義の欺瞞をもって 働いている。わたしたちの偉大な指導者によって、戦いを精力的に前進させるよう、 それはわたしたちの手にまかされている。わたしたちはもし目覚めていればできる ことを20分の1もしていない。安逸を愛し、わたしたちの救い主がそのご生涯 に模範を残された自己否定の精神に欠けているがゆえに、働きが遅れている。(教 会への証3巻407)

もし不信者たちがわたしたちの働きと生涯に、滅びようとしている魂を救うための献身と自己否定を見るならば、わたしたちの公言している真理の現実性を印象づけられる。受ける人を聖化する真理は、彼らにその印象を残すのである。(Vt'x-・アンド・ヘランド 1909 年 9 月 16 日)

#### 盗んではならない!

「盗んだ者は、今後、盗んではならない。むしろ、貧しい人々に分け与えるようになるために、自分の手で正当な働きをしなさい。」(エペソ4:28)

悩みの時はわたしたちの目の前にある。そのときには厳しい欠乏のために、神の民は自己を否定し、命を支えるのに足りる分だけを食べることが要求される。しかし、神はその時のためにわたしたちを準備させてくださる。その恐るべき時に、わたしたちの欠乏は、神がご自分の強める力を与え、ご自分の民を支えてくださるこのお方の好機となる。しかし、今は神は彼らが自らの手で働くことを要求しておられる。それは良いことであって、神が彼らを繁栄させられるときに蓄えをなし、真理のみ事業を支えるために自分たちの分を果たすようにと要求しておられる。(教会への証 1 巻 206)

ある人々は、外国に伝道者を送り、真理を出版し、それを世界中に秋の木の葉のようにまくために用いられる金銭を求める呼びかけに耳をふさぐ。そのような人々は、あなたに自分たちが死ぬときには惜しみなく捧げるよう取り計らったと告げることによって自分たちの貪欲の言い訳をする。彼らは自分たちの遺言の中で神のみ事業を検討した。そこで、彼らは什一と献金において神から盗み、貪欲の生涯を生き、そして自分たちの遺言の中で神が彼らに貸し与えられたものからわずかな一部を神にお返しし、その一方では真理に何の関心もない親戚には非常に大きな割合が充てられるのである。これは最悪な種類の泥棒である。彼らは神の当然の権利であるものを、自分たちの一生を通じてばかりでなく、死においてすら、神から盗むのである。(教会への証4巻479,480)

\_\_\_教会には、クリスチャンの堅実さという恵みを培い、信仰の人になるために成長しているべき青年たちがいる。彼らは堅固で、ゆるぎなく、真理に根ざし、また確立する者となるべきである。教会は彼らが与えるようにと神が計画された助けを、まさに必要としている。このお方のみ名を公言する人々は、自分たちの力をこのお方に十分に完全にお捧げしてこなかった。かえって彼らはある程度サタンの奉仕へそれらを譲り渡してきた。このような人々はこれまでも、また今もなお神から盗んでいるのである。タラントを委託された不忠実な管理人のように、彼らは神の賜物を世において隠してきた。(教会への証 5 巻 115, 116)

わたしたちは一点一画においても神から盗んでいないことを確認しよう。なぜなら、多くのことがこの問題にかかわっているからである。(教会への証9巻246)

#### 与えるように召されている管理人

「あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵 みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである。」(ペテロ第一 4:10)

すべてのものは神のものである。人はこのお方のご要求を無視するかもしれない。このお方が彼らに祝福を豊かにお与えになる一方で、彼らはこのお方の賜物を自分自身の利己的な満足のために用いるかもしれない。しかし、彼らは自分たちの管理職のために会計報告を出すよう要求されることになる。

管理人は自らの利害を自分の主人と同一にする。彼は管理人の責任を受け入れる。そして、自分の主人に代わって行動し、もし自分の主人が取りしきっていたならば、なすはずのことをするのである。(教会への証9巻246)

主はご自分に従う者たちが、自分たちの財産を自分で施すことのできるうちに そうするよう望んでおられる。ある者は、「わたしたちは実際に自分自身のものだ と思っているものを何もかも手放さなければならないのか」と尋ねるかもしれない。わたしたちは、今そうするように要求されないかもしれないが、キリストのた めにそうすることを望んでいなければならない。このお方のみ事業の前進のため に資金が必要とされているときには、自分たちの所有物を惜しみなく用いること により、それらが絶対的に主のものであることを認めなければならない。(教会へ の託 4 巻 479)

もし彼らが、財産に執着し、自分たちの義務について主に尋ねることをしないならば、主は彼らに義務を知らされない。そして、彼らは財産を持っていることを許される。そして、悩みの時に、それは彼らを押しつぶす山のように彼らの前にあらわれるだろう。そして彼らは、それを処分しようとするのであるが、もうそれはできないことをわたしは見た。わたしはある人々が次のように嘆くのを聞いた。「働きは衰微していた。神の民は真理に飢えていた。それなのに、われわれはその欠乏を満たそうとしなかった。今、われわれの財産は役に立たない。ああ、われわれはそれを手放して、天に宝を蓄えておいたらよかったのに。」わたしは、犠牲が増加せず減っていき、燃えつきるのを見た。また、神はすべての神の民が同じ時に、財産を処分することを望まれないことを見た。もし彼らが喜んで聞き従うことを望むならば、神は必要に応じて、いつ、またどれだけ売るべきかを示してくださるのである。過去において、再臨運動を支えるために、財産を処分するように要求された人々があった。またその反面、必要な時が来るまで財産を持っていることを許された人々もある。働きが必要とする時が来るならば、売ることが彼らの義務なのである。(初代文集 128,129)

## わたしたちの主にお会いする準備をする

「そこで主が言われた、主人が、召使たちの上に立てて、時に応じて定めの 食事をそなえさせる忠実な思慮深い家令は、いったいだれであろう。主人が帰っ てきたとき、そのようにつとめているのを見られる僕は、さいわいである。」(ルカ 12:42,43)

主は、心が世の思い煩いに満たされることの危険をわたしに示された。わたしはある人々が他の刺激的な本を読んで、現代の真理と聖書を愛する心から引き離されていくのを見た。また、他の人々は、飲食や衣服のことで心が悩みと苦労に満たされていた。ある人々は、主が来られるのははるか遠い先のことだと思っている。時は、彼らが期待したよりは数年長く続いた。そのために彼らは、時がさらに数年続くものと考える。このようにして、彼らの心は、現代の真理から引き離されて世に従っていく。わたしはこうしたことのなかに大きな危険を見た。もしわれわれの心が他のことで満ちているならば、現代の真理は心からしめ出されて、額には生ける神の印を押す場所がない。イエスが至聖所におられる時は、ほとんど終了し、時は、あとわずかしか続き得ないことをわたしは見た。われわれの空いた時は、聖書の研究のために費やさなければならない。この聖書が、最後の日にわれわれを裁くのである。

愛する兄弟姉妹がた、神の戒めとイエス・キリストのあかしを常に心に抱いていよう。そして、それに世の思いと煩いを閉め出していただこう。寝る時も起きる時もこれを瞑想しよう。人の子の来られることを常に考えて生活し、すべての行動をとろう。印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である。(初代文集 129,130)

牧師たちは眠っている。信徒たちは眠っている。そして世は罪のうちに滅びつつある。神がご自分の民を助けて、永遠の世界の境界線にいる男女として目覚めさせ、歩ませ、働かせてくださるように。まもなく恐るべき驚きが世の住民の上におとずれる。突然、力と大いなる栄光をもって、キリストが来られる。そのとき、このお方にお会いする準備をする時間はない。今こそ、わたしたちにとって警告のメッセージを与えるべき時である。(教会への証8巻37)

## 責任に目覚める

「あなたの会計報告を出しなさい。」(ルカ 16:2)

恩恵期間は今にも閉じようとしている。天ではまもなく「事はすでになった」との命令が出される。……敵はすべての魂に対して命のゲームをしている。彼はわたしたちからすべての霊的な性質のものを取り除くために働き、キリストの尊い恵みの代わりに、わたしたちの心に肉の性質の邪悪な特質一憎しみ、邪推、嫉妬、世への愛着、自己愛、娯楽への愛着、そして持ち物の誇り一をつめこもうとしている。わたしたちは滅びる人々のうちであらゆる不義の欺瞞をもって働き、侵入する敵に対して防壁を築く必要がある。なぜなら、わたしたちが見張り、祈っていなければ、これらの悪が心に入り、良いものをすべて締め出してしまうからである。

神のみ言葉を信じると公言する多くの人々は、敵の欺瞞的な働きを理解してい ないように見える。彼らは時の終りが近いことを悟らない。しかし、サタンはそれ を知っている。そして人が眠っている間に、彼は働く。肉の欲、目の欲、持ち物 の誇りが、男女を支配している。サタンは神の民の間でさえ働き、不一致を生じ させている。利己心、堕落、またあらゆる種類の悪が心をしっかりととらえてい る。多くの人によって尊い神のみ言葉が無視されている。小説や物語が注意をう ばい、思いを魅了している。想像力をかきたてるものは熱心にむさぼるが、その 一方神のみ言葉はわきにおかれている。ユダヤ国家がキリストを拒んで、強盗を 自分たちに与え、命の君を十字架につけるよう要求したのは、彼らが神のみ言葉 を見過ごしたからであった。そしてこの終りの時代に、自称クリスチャンは、同じ 罪を犯している。彼らは自分の思いがほとんど重要性のない事柄に没頭し、その 一方永遠の真理をなおざりにすることを許すがゆえに、秤で測られて、その量が 足りないことを発見されるのである。高め、聖化し、精練し、人を不死の最後の 一触れにふさわしいものとする神の真理は、重要性の劣る事柄のためにわきにお かれている。ああ、この盲目が過ぎ去り、サタンが男女のあいだで成し遂げつつ ある働きを、当人たちが悟ればよいのだが!(レビュー・アンド・ヘラルド1900年1月2日)

#### 最終試験のための教育

「多くの書を作れば際限がない。多く学べばからだが疲れる。事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである。」(伝道の書 12:12-14)

各時代を通じて、人間の好奇心は、人が知識の木を探し求めるように導いてきた。そしてしばしば人が自分はもっとも重要な実を摘み取っているのだと思っているとき、まさに探求していたときのソロモンのように、彼らは自分たちのために神の都の門を開く聖潔の科学と比較するとき、それがことごとくむなしく無に等しいことを見出す。学校教育のために重要不可欠だと思われてきた多くの書物には、誤った原則が含まれており、もしそれが実生活に持ち込まれるなら、生徒たちを誤った道へ導き、神への献身からそらすことになる。……

人間の野心は、人に自己称揚と主権をもたらすような種類の知識を探し求めてきた。こうしてアダムとエバの上に、神の抑制が真二つに裂けるまで、サタンによって働きがなされ、神が彼らに与えることを許されなかった知識一不法の結果の知識一を持つ者となるように、偽りの教師の下での彼らの教育が始まった。そのとき以来、人の子らは悪の実際的な知識を持つようになった。しかし、キリストはご自分が彼らのために、葉が国民をいやす命の木を植えられたことを示すために世に来られた。このお方は人のうちに神の道徳的みかたちを回復し、わたしたちの精神力を高め、高尚にするために来られたのである。(ユース・インストラクター1898年11月27日)

生徒たちに最後の大きな試験に耐える準備をさせ、国内外での伝道の働きに ふさわしい者とするために最も必要とされている研究の要点そのものが、 なおざ りにされている。 今必要とされている教育は、 すべての機能を神の御霊の支配下 におくことを生徒たちに教えることによって、彼らを実際的な伝道の働きのために ふさわしいものとする教育である。 最高の価値を持つ研究書は、 教師の中の教師であられるキリストの教えを記した書物である。 (レピュー・アンド・ヘラルド 1907年11月7日)

## だまされやすい者となってはならない

「まちがってはいけない。悪い交わりは、良いならわしをそこなう。」(コリント第-15:33)

家庭で宗教的な教えの恩恵を受けてきて、社会の悪徳を知らない生徒たちは、思いがより劣った型にはめられ、精神的教養や宗教的訓練のための利点が非常に限られてきた者たちと、しばしば最も親しくなる。そして彼らはこの種類の社会に混じることによって、また高める代わりにより低くし、道徳心を堕落させる傾向のある雰囲気を呼吸することによって、自分たちの仲間と同じ低い水準にまで沈む危険性がある。生徒の大部分の楽しみは、自分たちのひまな時間に、楽しく過ごすことである。そして家庭を出たときには無垢で純潔であった者たちの非常に多くが、学校での交わりによって堕落し始める。(教会への証3巻155)

あなたの息子たちは無力な赤ん坊のときとまったく同様に、少年時代も青年の 時も母親を必要としている。あなたの娘たちもまた愛情深いクリスチャンの母親 の油断のない保護を必要としている。彼らが不適切な交わりによって堕落させら れるままにほうっておいてはならない。子供たちは教えられ、安全な道に導かれ、 悪から守られ、親切によって勝ち取られ、勤勉な訓練によって善行のうちに確立 される必要がある。救い主はすべての魂のうちに、それが帯びる神のみかたちの ゆえに、価値と尊厳をお認めになる。このお方はあなたの子らが永遠の命という 賜物を得ることができるために死なれたのである。このお方は彼らを神聖な同情 をもってご覧になる。彼らの魂は永遠の命へと救われることができる。そして彼 らは他の人の魂とまったく同様に尊いのである。あなたは自分自身の戸の前に手 入れすべき小さな一角の土地がある。そして神はあなたの手に任されたこの働き の責任を問われる。熱心な祈りと研究を通して、あなたは自分の家庭で子供た ちのさまざまな気質を学び、注意深く彼らの態度に気づいて、賢明になることが できる。あなたは家庭で小さな学校を持ち、そこで自分が教師になることができ る。もしあなたが主の方法を理解し、それを守るための知恵を求めるならば、こ のお方は知恵と恵みを与えてくださる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1891 年 9 月 15 日)

#### 悪い本は火に

「それから、魔術を行っていた多くの者が、魔術の本を持ち出してきては、みんなの前で焼き捨てた。その値段を総計したところ、銀五万にも上ることがわかった。」 (使徒行伝 19:19)

〔エペソの人々は〕共に魔術の本、すなわちアルテミスの魔術の象徴や、その 魔術の秘密を記した高価な本を持ってきて、それらをみんなの前で焼き捨てた。 このように払われた犠牲を見積もったところ、銀五万、およそ一万ドルに等しいこ とがわかった。

これらのエペソ人の改心は、いつでも本物の改心に続く結果を伴っていた。自分たちの魔術の本が偽りであり、有害であることを悟ったとき、彼らはそれらを売って、他の人々の道に誘惑を置くようなことをしたくなかった。彼らは個人的に膨大な犠牲を払って、ただちに占いの記録を焼き捨てた。真理の力は、人間の偏見、好きな楽しみごと、そして金銭への愛着に打ち勝った。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1882年5月18日)

親愛なる青年方よ、物語の載っている雑誌を読むのを止めなさい。すべての小説を捨てなさい。パウロの時代、エペソで改心した人々は自分たちの魔術の本を焼き捨てたのである。わたしたちは自分たちの家からすべての物語雑誌や愚かしい写真一サタンの代理者に由来する象徴一の載った出版物を一掃するがよい。青年たちは自分たちの思いをこのようなもので汚すわけにはいかない。(レピュー・アン ド・ヘラルド 1906 年 7 月 19 日)

一つ一つの家庭におけるすべての安っぽいくずのような読み物が焼き捨てられればよいのに!わが親愛なる若い友人がたよ、あなたを誘惑して作り話を読みふけらせるようなものはすべて焼き捨てることほど、良い結果をもたらすことはない。(カナダ・ユニオン・メッセンジャー 1907 年 9 月 3 日)

キリストの弟子たちは魔術の本を焼き捨てたであろうか。彼らは自分たちの原則と生活習慣に決定的な変化をもたらしたであろうか。彼らは自ら世の魔力より分離したであろうか。……神は禁じられた道を歩むことを選ぶ人々を守るようにとご自分の御使たちに責任をお与えになることはない。……

わたしたちはキリストに従う人々に尋ねたい、「あなたは魔術の本を焼き捨てま したか」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1882 年 5 月 18 日)

#### 不信者の科学を遠ざける

「テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。そして、俗悪なむだ話と、偽りの『知識』による反対論とを避けなさい。 ある人々はそれに熱中して、信仰からそれてしまったのである。」(テモテ第一 6:20, 21)

わたしたちは絶えず地質学やそのほか誤って科学と呼ばれているが、真理の 片鱗すらない分野にかかわる詭弁に対して防御する必要がある。(レピュー・アンド・ ヘラルド 1898 年 3 月 1 日)

神は人間の知力を啓発し、芸術や科学の発見において世界に光の洪水を注いでこられた。しかし、これらを単に人間の見解からしか見ない人々は最も確実に誤った結論へいたる。誤謬や懐疑論や不信心のとげは、哲学や科学という衣で覆われることによって隠される。サタンは生ける神から魂を勝ち取るこの巧妙なやり方を考案してきた。(健やかな生活 293)

高尚な資質を持ち、神がご自分のみ事業においてお用いになることのできるはずの人が大勢いる。しかし、サタンの惑わしの力が呪文のように彼らの上に投げかけられてきた。誤って科学と称されているものが彼らを真の宗教の基礎そのものから論じそらせてしまう。彼らの感覚はあまりにも混乱させられ、御霊と神のみ言葉の証に疑問をさしはさむのである。(レピュー・アンド・ヘラルド1896年12月29日)

日々は大いなる困惑と混乱が起こる時に急速に近づいている。サタンは御使の衣をまとって、可能であれば選民をも惑わそうとする。多くの神々や主々が起こるであろう。あらゆる教理の風が吹くであろう。「偽りの知識(科学)による反対論」に最高の敬意を払ってきた人々はそのとき指導者とはならない。知性や才能やタラントに信頼をおいてきた人々はそのとき一般大衆の頭として立つことはない。彼らは光と歩調を合わせなかった。自ら不忠実であることを証明してきた人々が、そのときに群れを任されることはない。最後の厳粛な働きにおいて、偉大な人物はほとんど携わることがない。彼らは自己満足で神から独立しているため、神が彼らをお用いになることができないのである。主は忠実な僕を持っておられる。彼らはふるいとテストの時に、見られるようになる。今は隠されているが、バアルにひざをかがめてこなかった尊い者たちがいる。(教会への証5巻80,81)

#### どの知恵をわたしは優先するか

「だれも自分を欺いてはならない。もしあなたがたのうちに、自分がこの世の知者だと思う人がいるなら、その人は知者になるために愚かになるがよい。なぜなら、この世の知恵は、神の前では愚かなものだからである。神は、『知者たちをその悪知恵によって捕える』と書いてあり、更にまた、『主は、知者たちの論議のむなしいことをご存じである』と書いてある。」(コリント第一3:18-20)

主の民だと公言する人々によって世の知恵があまりにも高く評価され、上よりの知恵はあまりにも求められていない。人々はクリスチャンの教理の知識は持っているかもしれないが、なおクリスチャン経験はほとんど理解していない。多くの人々は世俗の事柄においては鋭敏で、かしこく、敏速であるが、その一方神の奉仕においては、ほとんど関心も機転も精力も表さない。彼らは自分たちの鋭さや利口さを、サタンの考案物を見抜くために見張り、いかに敵に勝つことができるかを研究するために働かせない。彼らは神のみ事業を前進させるために賢明な計画を立て、最も熱心で均整の取れた努力を払うために自分たちのあらゆる力を結集しない。世俗的な現世のことには働かせる知恵が、霊的で永遠の事柄にはほとんど捧げられることがない。この方法によって、能力のある人は自分たちが霊的であるよりはむしろ肉的である証拠を示しているのである。

すべての人は、職業が何であれ、神のみ事業を第一の関心事とすべきである。彼は主の働きを前進させるために単に自分のタラントを働かせるばかりでなく、自分の能力をこの目的のために培うべきである。多くの人々は、自分が世の中で成功した働き人になれるように商売や職業の知識習得のために数ヶ月あるいは数年をつぎこむ。それでいながら、彼は主のぶどう畑において、成功をおさめる働き人にするはずのこれらのタラントを培うために特別な努力を払わないのである。彼は自分の力をゆがめ、自分のタラントを誤用してきた。彼は自分が天の主人を軽蔑していることを示してきた。これは神の民だと公言している者の大きな罪である。彼らは自分自身に仕え、世に仕えている。彼らは利口で成功を納めた資産家という名を持っているかもしれないが、神がその奉仕のために彼らにお与えになったタラントを用いることによって増し加えることをなおざりにした。世俗の機転は、働かせることによって強くなっているが、霊性は不活動を通して弱くなっている。(レビュー・アンド・ヘラルド 1884 年 1 月 1 日)

#### どのように建てているか用心する

「どういうふうに建てるか、それぞれ気をつけるがよい。」(コリント第一 3:10)

あなたがたはどのように建てているかに関して神に会計報告を出さなければならない。なぜなら、あなたがたが自分の働きに成功することができるよう、すべての備えがなされてきたからである。ご自分の神聖な指でユダヤの境界線を引かれたお方、宮がどこに建つべきか正確な場所を指定されたお方、ユダヤ人の教会と聖所の奉仕のために計画を実行されたお方が、ご自分の戒めを守るご自分の民、すなわちご自分の選ばれた民を、偶然な経験や事故に、また闇の中でつまずくがままに放っておかれるであろうか。このお方が最も尊い光を委ねられた人々、すなわち第三天使のメッセージを委任された人々が、いにしえの民ほどこのお方のみ摂理の導きを持たないということがあるであろうか。

ああ、教会が目覚めるならば!ああ、この時代のための真理を公言するすべての人々が真理を通して聖化され、それによって神のご計画を認めて、世界に光を伝えるという自分たちの個々の責任を理解することができるならば。真理の種は新しい創造へと芽を出し、魂は神へと改心させられる。

何をなし得るかを面前にするとき、教会は考え続けるのであろうか、あるいは神のあわれみ深いみ摂理を通して自分たちに与えられている責任と栄誉を感じて、自分たちが受け継いだ信任と、現代の光の有利性を集め、今わたしたちの前にあらわれている緊急時に立ち上がる必要性を感じるであろうか。世界はわたしたちが想像する以上に、大きな関心をもってわたしたちの動きを見ている。(い\*ュー・アンド・ヘラル\*1893年2月21日)

あなたがたがどのように建てているか、どのような材料を建物に持ち込んでいるかに注意しなさい。あなたがたが今形成している品性が、永遠に続くのである。

イエスにあなたの思い、あなたの心、あなたの愛情を所有していただき、家庭の義務、自己否定の小さな行為、親切な行いを良心的に行いながら、短い時を勤勉に用いつつ、小さな罪に対しては注意深く見張り、小さな祝福には感謝の心を持ち続けて、キリストが働かれたように働きなさい。(ユース・インストラクター 1886年11月3日)

#### 品性の建造物を積み上げる

「この土台の上に、だれかが金、銀、宝石、木、草、または、わらを用いて建てるならば、それぞれの仕事は、はっきりとわかってくる。すなわち、かの日は火の中に現れて、それを明らかにし、またその火は、それぞれの仕事がどんなものであるかを、ためすであろう。」(コリント第一3:12,13)

代価を数えて、永遠のために建てたいと望む人々は、自分たちの建物に良い材料を持ち込まなければならない。もし彼らが腐った材木を受け入れるなら、すなわちもし彼らが品性の欠陥に満足しているなら、建物は崩壊の運命にある。すべての者は、自分たちがどのように建てているか注意しよう。誘惑の嵐が、建物に押し寄せるであろう。そして堅く忠実に建設されていなければ、それはテストに耐えないのである。……

わたしたちはすべての人の心を恐れさせるべき危険な時代に生存している。多くの人々の思いが懐疑論の当惑を通して迷っているのを見る。この原因は、無知、誇り、そして欠点のある品性である。謙遜は堕落した人類にとって学ぶのが難しい教訓である。神と罪人、聖なる律法の違反、そしてキリストを通しての許しに関する主題について明らかにされた真理に反対して立ち上がる何かが、人間の心の中にある。

わが兄弟姉妹方、老若の方々、あなたに暇な時間があるとき、聖書を開いて、その尊い真理を思いに蓄えなさい。働きに携わるとき、思いを守って、神にとどまるようにし、少なく話し、多く瞑想しなさい。次のことを覚えていなさい、「あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう」(マタイ 12:36)。あなたの言葉を選びなさい。これが魂の敵に対して戸を閉じることになる。祈りをもってあなたの一日に入り、神の御目の前にいるかのように働きなさい。……もしあなたがよい勧告に背を向けて、クリスチャンだと公言していながら、宗教的なことに思いを向けさせない傾向があると疑わしく思うような人々と交わることを選ぶなら、あなたはまもなく彼らと似た者となる。(教会への証 4巻 588, 589)

日ごとにわたしたちは改心する必要性を悟る必要がある。キリストと世の間の バランスを取ろうとして区別の境界線上に立ってはならない。主に贖われた人々 のためにしかれた道にとどまっていなさい。(ユース・インストラクター 1900 年 10 月 25 日)

#### 目ざめて熱心になる

「目ざめて身を正し、罪を犯さないようにしなさい。あなたがたのうちには、神について無知な人々がいる。あなたがたをはずかしめるために、わたしはこう言うのだ。」(コリント第一 15:34)

惜しげもなく多くの信者によって不必要なもののために費やされた金銭は、今にも滅びようとしている魂を勝ち取る働きに与えられるべきである。わたしたちの民が神と共に働く共労者となる必要性を感じるべき時である。自己否定と自己犠牲は、この時代に非常にふさわしい。(レピュー・アンド・ヘラルド 1909 年 9 月 16 日)

ノックスがスコットランドのために神のみ前に嘆願したときに持っていた関心を持っているなら、わたしたちは成功する。彼は、「主よ、わたしにスコットランドをください、さもなければわたしは死にます」と叫んだ。そしてわたしたちが働きに取りかかるときに、神と格闘し、「わたしは魂を得なければなりません。決してこの苦闘をやめません」と言うならば、神がわたしたちの努力を、恩寵をもって見て下さることを見出すのである。このお方はあなたの伝道の結果としてご自分が魂をお与えになっても、それであなたが誇ったり、得意になったりしないのをご覧になる。あなたは一瞬たりともだれか他の人がこれらの魂のための功績を得ると感じるような立場にいることはない。そうではなく、あなたは彼らが救われることを神に非常に感謝し、日夜このお方への賛美があなたの心とあなたの唇にあるのである。神がご自分の働きにおいて強力な器となさるのはこのような人である。わたしはこれらの点を真剣に感じる。

彼らと交わってきた人々、どのように神のみ働きをなすか学ぼうとしている人々は、これらの働き人たちに自分たちがどのような教育を与えているかについて、自分たちの魂にたえず重荷を感じるべきである。永遠がこの働きにおいて彼らと関わっている人々に当てている型がどのような種類のものであるかを語るようになる。もし彼らがパウロの持っていた霊と力を持っているならば、すなわちすべての人をイエス・キリストのうちに完全なものとして提示するために力強く働いている神の御霊を持っているなら、彼らはつねに教訓と模範によって、最も聖なる信仰のうちに彼らに建てさせようと努める。この型を受けた働き人たちは、今度はそれを他の人々に与えるのである。感化力は実に永遠に至るほど遠大なものである。(説教と講和2巻45,46)

男女を闇の中にいる人々のために働くために新しい伝道地に送り出すことほど、自己犠牲的な熱心さを男女のうちに呼び覚ますものはほかにない。(教会への証8巻147)

#### 確かな知恵

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。」(ヤコブ 1:5,6)

わたしたちは自分自身の小ささや神にまったく依存していることを自覚するときに初めて霊的な知識において前進する。しかし、神のみ言葉が何と言っているかを研究するために教えられやすい祈りの精神をもって聖書の許へ来るすべての者は、神聖な啓発を受ける。一見難しく不明瞭に見えるが、このようにそれらの理解を求める人々には神が明瞭に単純にして下さることが多くある。

教育と教養によって知的能力を培ってきた人々が、聖書のある聖句を理解するのに失敗する一方で、教育を受けておらず、理解力が弱く見え、思いの訓練を受けていない人々が意味をつかみ、前者が神秘的で重要でないといってやり過ごすものの中に力と慰めを見出すことがある。これはなぜであろうか。わたしは、後者の部類の人が自分自身の理解力を頼みとしていないからだと説明された。彼らは光の源、すなわち聖書に霊感をお与えになったお方の許へ行き、心のへりくだりをもって知恵を神に求める。そしてそれを受けるのである。熱心な探求者によってなお発見されるべき真理の鉱脈がある。キリストは真理を畑に隠された宝として表された。それは地表にあるのではない。わたしたちは、そのために掘らなければならない。しかし、それを探すのに成功するかは、わたしたちの知力よりも、むしろ心のへりくだりと神の力をつかむ信仰にかかっている。(教会への証5巻704)

非常に偉大かつ厳粛な真理を委ねられてきた人々が、それに見合った信仰を表せばよいのだが!彼らは主のみ手に自分たちの働きを委ね、ひざをかがめて、知恵と導きを嘆願し、その後にすべての重荷をまた取り戻して、自分自身の力で計画を立てて実行し、重荷が重すぎるといってうめく代わりに、それを主にお任せしなさい。絶えざる活動の生活の中で、彼らはこのように自分たちの魂に休息を見いだすのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1883年9月27日)

## 神の御目に傷がない

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだとを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のとき(まで)、責められるところのない者にして下さるように。」(テサロニケ第一5:23)

悔悟とへりくだった信頼をもって、イエスを、すなわちわたしたちの罪が刺し通し、わたしたちの悲しみが重荷を負わせたお方を瞑想する一方で、わたしたちはこのお方の足跡を歩むことを学ぶことができる。このお方を眺めることによって、わたしたちはこのお方の神聖なみ姿へと変えられていく。そしてこの働きがわたしたちのうちになされるとき、わたしたちは義を自分自身のものとして主張せず、自分たちの無力な魂がこのお方の功績にすがる一方で、イエス・キリストを高めるのである。

わたしたちの救い主はいつでも自己義をお責めになる。このお方はご自分の弟子に、最高の宗教の種類とは、静かな慎み深い態度でそれ自体を表すものだとお教えになった。このお方は自分たちの愛の行為を静かに行うようにと警告なさった。みせびらかすためでなく、人からの讃美や誉れを受けることがないように、かえって神の栄光のために、自分たちの将来の報いを期待して行うのである。もし彼らが人によって良い行いを賞賛されたなら、天におられる彼らの御父から彼らに与えられる報いはない。(ルビュー・アンド・ヘラルド 1881 年 1 月 18 日)

何かの義務について聖書の証をはっきりと理解しない時があれば、わたしたちは偉大な教師の許へ行くことを命じられている。わたしたちに知恵が不足しているとき、神に尋ねることがわたしたちの特権であり、義務である。もしわたしたちが謙遜と信仰のうちに行くならば、むなしく送り返されることはない。

しかし、人が義務の要求をはっきりと認めるとき、それが十字架を伴うからといって服従を免除されるよう祈るためにあえて神の許へ行くような僭越をゆるしてはならない。むしろ、へりくだった服従の精神で、真理を受け入れ実践するために、神聖な力と知恵を求めるために行かせなさい。(レピュー・アンド・ヘラルド 1883 年 9 月 25 日)

わたしたちの安全は、キリストを眺めることにある。自己が礼拝の対象となっているとき、すなわち、自己称揚でいっぱいになっているとき、人は自分自身の偶像にひざをかがめ、キリストを見失っているとき、彼らは恐るべき危険の中にいる。キリストは世の光であられる。あなたの顔をこのお方からそむけるとき、あなたは闇の中を歩む。あなたの目をこのお方の完全に留めなさい。そうすれば、あなたは天の光のうちを歩む。(レピュー・アンド・ヘラルド 1902 年 3 月 26 日)

#### Good Way Series 研究 1-7



#### VII- もうひとりの御使とふるい

SDA 教会の中の分離を指摘している大争闘下巻 378 ページの証は単に一つの事件や一場面について言及しているのではありません。それは長期間続いて起きる一連の事件を示しているのです。この預言には三つの局面が見られます。(1) 試練の嵐が来る前に再臨信徒の群れ (クリスチャン奉仕 52) が真理から離れて、自らサタンの旗の下に立ちます。これは、彼らが教会の組織から離れるという意味ではありません。反対に彼らは多くの群れを構成し、世の終わりまで教会の中で支配する力となりまず教会への証 5巻 209~212 をお読み下さい〕。(2) 大きな試練が近づくにつれ、この背信した多くの群れは、世と益々結合していき、その精神をもっと十分に抱くことによって、彼らの教団の特性を発達させます。(3) そして大きな試練、日曜休業令が来る時、この多くの群れは、一つの組織された教会として権力に屈服します。その時彼らは黙示録 18章の天使のみ働きにあずかって働いている「以前の兄弟たち」の最も苦い敵となります (各時代の大争闘下巻 372,378 参照〕。

この忠実な残りの民は、1844年に第三天使が第二天使と結合したように、第三天使と結合します。それでは第三天使は第二天使とどのように結合したのでしょうか。1844年に第三天使が来たとき、その天使が持ってきた真理は、その時まで第一と第二天使を代表していた第一日再臨信徒たち(ウィリアム・ミラーとその他の再臨運動の指導者たち)によって拒絶されました。ミラーの教えを信じるこの団体が第三天使の光を拒絶したとき、彼らはもはや第一、第二天使

を代表しなくなりました。その時からは、第三天使のメッセージを心から受け入れた再臨信徒たちの手中で、第一と第二天使の代表が続けられました。以前の団体を離れ、SDA教会の先駆者となったこれらの忠実な信徒たちを通して、第三天使は、第一、第二天使と結合したのです。再臨信徒の団体に分離があった一方、三天使の間には提携があり、彼らはいまや新しく組織されたSDA教会を通して、手に手を携え働いているのでした。

第四天使(黙示録 18章の天使)が来るのは、第三天使へ加わるのと同様です。歴史は繰り返します。改革しなかった母教会 SDA、すわなち、後の雨ではなく、神の怒りを受けることになる(教会への証 5巻211)は、神の臨在が教会として彼らから引き上げられたとき(教会への証 5巻210)、第一、第二、第三天使をもはや代表しなくなりました。明らかに、ついに「あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつ」となる教会(牧師への証 265)は、それ以上神の三天使を代表することはありえません。「以前の兄弟たち」(各時代の大争闘下巻378)によって構成される忠実な残りの民が、この天使たちを代表します。この群れの中で、黙示録 18章の「天使によって象徴されているところの運動」が大いなる叫びの備えをするまで、今、第四天使が第三天使のメッセージに力と栄光とを加えなければならないのです。…

キリストがこの世で働いておられた間、ユダヤ人の中では将来来ると預言されたエリヤに関する論争がありました。マラキ4章に「エリヤが先に来なければならない」となっているので、イエスはメシヤではないという考えを頑に主張したパリサイ人によって、弟子たちまでも混乱しました。「エリヤはすでにきたのだ。しかし人々は彼を認めず」(マタイ17:12)と言われたとき、彼らにとってそれはなんと驚くべき啓示だったことでしょう。バプテスマのヨハネが、神の使命者だと認めた人々は、直ちにこの説明を受け入れました。イエスは、「そして、もしあなたが受け入れることを望めば、この人こそは、きたるべきエリヤなのである」と言われました(マタイ11:14)。「もうひとりの天使」に関するこの書を読まれる方に同じ提案をします。すべての人々はエリヤが先に来るはずだということに同意しますが、すべての人が「エリヤはすでにきているのに、人々は彼を知らない」ということを認めるわけではありません。

ラオデキヤ人の信徒の問題は、霊的な盲目のゆえに(黙示録3:17)、正義と

偽り、真理と誤謬とを識別できないことです。「わざわいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗さを光とし、光を暗しとし、苦さを甘しとし、甘さを苦しとする」(イザヤ5:20〕。ただラオデキヤへのメッセージが示している目薬だけが、神の光を光として見分けることのできる霊的識別力をわれわれに与えてくれます。

読者のある方々はここで、「これらのことはわたしたちにとってまったく新しいことだ。わたしたちは今までこのようなことを教わったことがなかった」と言われるかもしれません。事実、黙示録 18 章の天使と 1888 年のメッセージの真理について、知っている再臨信徒たちは、多くありません。ですから、多くの人々は、光を認める立場にないのです。

「光が地を明るくするとき、神の助けにたよらず、彼らは自分の偏狭な考えによって、神のみ事業を東ねようとするであろう。主はこの最後の働きを非常に型破りな方法でなされ、またどんな人間の計画とも全く逆の方法でなされるということを、わたしはあなたがたに伝えておく。われわれの間には、いつも神のみ働きに干渉したがる者があり、世に与えられるべき使命における、第三天使に加わる〔黙示録 18:1 の天使のもとに働きがなされる時でさえ、どんな運動がなされるかを指示したがる者があるであろう」(牧師への証 300)。

れた田舎道やかなたの深い青色の海に輝きわたるとき、神はもう一度、行動を起こされました。

「神はまた言われた、『水は生き物の群れで満ち、鳥は地の上、天のおおぞらを飛べ』。神は海の大いなる獣と、水に群がるすべての動く生き物とを、種類にしたがって創造し、また翼のあるすべての鳥を、種類にしたがって創造された。神は見て、良しとされた。神はこれらを祝福して言われた、『生めよ、ふえよ、海の水に満ちよ、また鳥は地にふえよ』。」

なんという日でしょう!なんとすばらしい日でしょう!みなさんは、そこにいられたらなあ、と思いませんでしたか?わたしはそう思います。神さまが造られた最初の金魚や、最初の銀色のさけをお造りになるところを見てみたいと思いますし、最初の大くじらが、巨大な潜水艦(せんすいかん)のように、海の中から出てくるところを見てみたかったと思います。

## ズッキーニのガーリックソテー

#### ■材料

 ズッキーニ
 1本

 にんにく
 1片

 塩
 少々

 オリーブオイル
 適量

#### ■作り方

- 1. ズッキーニをたてに半分に切り、切り口にさいの目に切り込みを入れます。
- 2. ニンニクをみじん切りにします。
- 3. フライパンにオリーブオイルを入れて熱し、にんにくを入れて、少し香りを出したら、わきへ寄せ、ズッキーニを皮の方から入れて、塩をふって、ひっくり返します。
- 4. 弱火にして、ふたをし、蒸し焼きにします。
- 5. 柔らかくなったらでき上がりです。

#### 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校:9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教:11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究:14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp



#### 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

#### □聖所真理

お申込先:〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係 是非お申し込み下さい。

#### 書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよ みもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全 に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムで す。



#### 聖書物語

## パート1 第 11 話 波黙をやぶる一歌(1)

神さまが造られた世界は、言葉に言いつくせないほど美しかったのですが、ことごとく美しくありながら、それは静かで空っぽな世界でした。

第五日目に朝が明けるとき、木々のあいだをそよぐ風の音や岸辺に打ちつけるやさしい波の音をのぞけば、どこにも音は聞かれませんでした。ライオンがほえることもありませんでしたし、象が森の木陰でラッパのような鳴き声をあげることもなく、シダにおおわれた水たまりで小さいカエルが鳴くことすらありませんでした。犬がほえることも、コヨーテが遠吠えすることも、カラスがカーということもありませんでした。人の声もしませんでした。男の子が叫ぶ声も、小さい女の子の笑い声もありませんでした。なんと静かなことでしょう!

しかし、神さまは空っぽの世界や静かな世界をのぞんではおられませんでした。そこを人や動物の住むところにしようとしておられました。第一日目、二日目、三日目、四日目にこのお方がなさった大きな準備は、生きた

被 造 物 の 大 群 衆 の すまいにす るためだっ たのです。

ですか 太 た 陽がく明る くだおわ

